

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム名	派遣交換留学		
所属(本学)	理工学研究科 建築学専攻		
現在の学年	修士 2 年		
留学先国	ベルギー	留学先大学	ゲント大学
留学期間	2015 年 9 月 16 日 ~ 2016 年 1 月 31 日		

① 留学先大学の概略

ゲント大学は、首都のブリュッセルからは電車で30分強ほどの位置にあるベルギーで3番目に大きい都市にある大学です。総合大学なので文系や医系の学部もあります。私は Faculty of Engineering and Architecture という学部にも所属していました。キャンパスは存在せず、街の中に校舎が点在しているのが大きな特徴でした。

② 留学前の準備

留学しようと思いついたのが修士課程になってからだったのですが、在学期間をなるべく延長したくなかったため当初はM1の2月出発を目指して準備していました。しかしゲント大学は出願のための語学要件が非常に厳しく期限までに必要な TOEFL の点数を得ることが出来なかったため、出発が半年遅れることになりました。TOEFLは2回受けましたが全くと言って良いほど点数が上がらず性に合わないと判断して IELTS に切り替えたところ、1 回目の受験で十分なスコアを得ることが出来ました。IELTS は TOEFL に比べて参考書が少なくしかも高価なのが難点ですが、リスニングとスピーキングがかなりやりやすい方式なので、TOEFL で伸び悩んでいる人にはお勧めです。私は西 3 号館にある外国語学習資料室で参考書を大量に借りて勉強していました。

修士論文は他の留学しない同期と同じく M1 の 1 月頃から取り掛かり始め、出発前までは準備と並行して論文のための作業を行い、一旦中断という形で留学に行きました。これから就職活動と並行させながら少しずつ再開し、在学期間を1年延長して卒業する予定です。卒業に必要な単位はほぼ既に取り終えているため、M3の前期は休学をする予定です。

出発前の準備で最も煩雑で面倒だったのはビザの取得でした。大量にある必要な書類を揃えるために大使館、警察署、外務省などを行ったり来たりしました。また、健康診断書を得るために大使館指定の病院で2万5千円もする健康診断を受けました。さらに手数料として150ユーロ支払わなければならない、結局ビザ取得だけで5万円ほどかかりました。

③ 留学中の勉学・研究

3科目、計12単位を取得しました。年ごとにテーマが変わる都市系のリサーチのグループワーク2つ(1つはゲント大学とゲントの街の関係に関するフィールドワーク、もう一つは世界の大学キャンパスの発展と都市の関係に関するリサーチ)と、建築に関する本や雑誌を読んで批評を4000語ほど書き、それについてプレゼンやディスカッションをする授業を取っていました。ゲント大学の建築は留学生が非常に少なく(15人程度、私以外は全員ヨーロッパ出身)、大部分を占めるベルギー人の正規の学生に混じって授業を受けるような感じでした。グループワークで一緒だった人たちも全員ベルギー人でした。私は取らなかったのですが、スタジオも正規の学生10~15人に留学生が1人か2人混ざる感じだったようです。これを良いと取るか悪いと取るかはその人次第だと思いますが、個人的には常にマイノリティの立場であったため苦労することが多かったように思います。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

週末などを利用して、ゲント以外にも様々な街を訪れて様々な建築を見ることを大事にしていました。ベルギーは地理が良いので、オランダやイギリスなどの周辺諸国に簡単に安く気軽に行くことができます。また、ベルギー国鉄はお得なチケットがたくさんあり特に25歳以下の人は国内ならどこでも片道5ユーロで行くことが出来ます。私はこれを利用して週末などにたくさんのベルギーの都市を巡りました。

授業は大変でしたが、週末は勉強せずに出かけたかったので、結果的に生活にメリハリがついたのが良かったと思います。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

私は専門が建築史なので、ヨーロッパの建築をたくさん見たいというのも留学を希望した理由の一つだったのですが、結果的に実際にそこに暮らしてみることによって建築にとどまらない視野や知見を広げることが出来たと思っています。特にベルギーは大国に挟まれた複雑な歴史背景や言語事情を持つ国です。オランダ語圏とフランス語圏はまるでそれぞれ違う国のようで、ベルギーとして一つの国にまとまっていることが不思議に感じられる時もありました。そのようなその国特有の少し込み入った事情のようなものを実際に生活しながら現地の人と触れ合う中で肌で感じる事が出来たのは新鮮だったし貴重な経験だったと感じています。

⑥ 留学費用

トビタテ！留学 JAPAN から奨学金をいただき、それで殆ど全ての費用を賄いました。トビタテの他にベルギー政府奨学金も応募しました。2月出発で決まっていたら JASSO の第2種奨学金を借りる予定だったので、出発が半年遅れたことにより応募が出来、合格することも出来たので結果的に良かったかなと思っています。と同時に、留学を最初から半年と決めていた理由には金銭面の不安もあったため、もし学部4年の早い段階から留学を決意して準備を始めていたら、奨学金で1年留学出来たかもしれないな、と少し後悔しています。

寮の家賃は毎月407ユーロで、なるべく自炊や学食を利用して節約していたので食費を含めた生活費は毎月300ユーロにも満たなかったと思います。

⑦ 留学先での住居

アントワープ大学は留学生の数に対して寮の部屋の数が圧倒的に足りないようなのですが、私は運良く寮に入ることが出来ました。キッチンのみ共用、光熱費など込みで月407ユーロでした。寮に入れなかった人たちは部屋探しがとても大変そうで、中には2週間くらいホステル暮らしをしている人もいました。寮に入ることができると、住民登録の手続きなども楽になります。

⑧ 留学先での語学状況

アントワープの公用語はオランダ語ですが、街の人達は普通に英語が話せるため英語のみで生活していました。オランダ語の授業をとりとうと思えばとれたのですが、あまり必要性を感じなかったのとリマセんでした。

学部によって違うのですが、私のいた学部の授業はオランダ語で行われるものが多く、英語の授業は数に限りがありました。内容はすごく面白そうなのにオランダ語だから履修できない…というようなものも結構ありました。

出発前のIELTSの点数は6.5でした。最初は日常会話と授業での英語それぞれに違った難しさがあり苦労しました。特に授業内でのディスカッションは最後までかなり大変でした。

⑨ 単位認定、在学期間

既に修了に必要な単位はほぼ留学前に取得してあるので、単位認定は行わない予定です。就職活動と修士論文のために在学期間は1年延長します。

⑩ 就職活動

留学先では特に何も行っていません。これから始める予定です。

⑪ 留学先で困ったこと

11月後半頃に、生活の慣れから来る中だるみと、ちょうど同じ時期にパリで起こったテロの影響でベルギーも少し物騒な状態になり遠出する気が起きず気分が落ち込みがちになったことで少し引きこもりがちになりました。少し意識的に人と会って話したり出掛けたりしていたら解決しました。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

私は少し珍しい場所に留学したので、事前の情報が非常に少なく、大学の授業に関しても正直期待はずれだった部分が多少なりともあったりしました。また住んでいたアントワープの街についても良いところもあればどうしても好きになれなかったところもあったりしました。しかしそのようなマイナスの部分をひっくり返しても、自分が生まれ育った場所とは全く違った環境や文化のもとで、日本では絶対に出来ない体験が出来たという意味で、留学して本当によかったと思っているし、出来ればもっと長い期間居たかったとも思っています。留学経験者はほぼ全員口を揃えて言う事ですが、少しでも興味があるなら絶対にチャレンジしてみたほうが良いと思います。